

平成28年度の学校評価(自己評価結果等)

本校の教育目標	1 生きて働く知性 2 豊かな心と礼節 3 たくましい気力と体力		
本年の重点目標	自主・自律を育む教育の推進 セレンディピティーを鍛え、地域に愛され、地域の誇りとなる学校づくり		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
防災教育 (総務部)	実践的な防災体制の確立	① 現行の防災体制の改善をし、生徒の意識の向上を図る。 ② 防災情報を周知設定し、状況に応じた迅速な行動様式の確立を目指す。	① 防災訓練は年3回の実施は、予定通り実施でき、11月の防災訓練では、初めて調理室出火の場合の訓練を実施できた。迅速に生徒は行動することができた。防災意識を今後も高めていく方法(消火器の使用手法や、煙の部屋の中を退避するなど)を考案していきたい。 ② きずなネットは全保護者に加入していただくことはできなかった。防災情報を素早く発信することができるよう今後も努力していきたい。
学習指導 (教務部)	確実な学力の定着	① 予習・復習の徹底及び確認 ② 授業規律の徹底と放課の有効活用	① 様々な場面を活用して予習・復習の習慣が定着するように指導してきたが、まだ十分とはいえない。学習定着週間や面接週間を有効活用すると同時に、予習・復習が不可欠な授業内容についても研究していかなければならない。 ② 各分掌及び各学年の協力もあり、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組める環境が整ってきた。放課の有効活用については、引き続き具体的な方策を考えていきたい。
生徒指導 (生徒指導部)	① 基本的な生活習慣の育成 ② 主体的に行動できる生徒の育成	① 遅刻・身だしなみ指導の充実 ② 情報リテラシー教育への取組 ③ いじめの予防	① 遅刻数は激減している。身だしなみも1・2年生は新しい基準をよく守っている。 ② 携帯・スマホ使わない週間を新しく導入。よく守れていた。 ③ アンケートを実施し、早期発見に務めた。
進路指導 (進路指導部)	3年間を見通した進路指導の充実	① 生徒・保護者の進路意識の更なる向上 ② 生徒の主体的な進路選択能力育成に向けた指導体制の充実	① 「進路の手びき」を予定どおり発行できた。内容については、今後、より精選させていきたい。生徒対象の類型説明会や、進路に関する懇談会などを通して進路情報の発信を図った。 ② 外部模擬試験の回数を増やし、学年と連携をとりながら、いっそうの活用に取り組んだ。
環境美化 (保健厚生部)	環境の美化	① 日常清掃を充実させる。 ② 生徒相談・特別支援教育のより充実を図る。	① おおむね良好であるが、生徒・職員の美化意識をより向上させる。今年度清掃区域の変更をしたがうまく実施できた。 ② 生徒相談・特別支援教育に関する知識・理解をより深め、スキルの向上を図る。スクールソーシャルワーカーについても職員の理解を深める必要がある。
読書活動 (図書部)	図書委員会活動の充実	① 定期的に図書委員会を開き、行事の準備を計画的に進めさせる。 ② 行事にあわせて代表者会を持ち、委員会活動を充実させる。	① 国際交流会・文化講座・読書月間などの行事ごとに図書委員会を開いて役割分担を決定し、担当教員が適時助言をしながら委員会活動を行なった。今後も生徒の動きを見ながら活動を充実させたい。 ② 代表者は行事のテーマ決定や司会など重要な場面で活躍した。今後も委員会との連携を図りながら、活動を充実させていきたい。
部活動 学校行事等 (生徒会部)	① 部活動の充実と整備 ② 生徒会行事の充実と整備 ③ 執行部の活動の充実	① 部活動の活性化と活動規則の厳守による安全な運営。 ② 学校行事の活性化と内容の見直し。 ③ 福祉・ボランティア活動の充実を図る。	① 活発な活動で、運動部・文化部ともに活躍することができた。部室等の未施設がないように指導していきたい。 ② 厳しい準備日程の中で、学校祭をやり遂げた。応援構成や発表場所など学校祭の見直しを経て、来年度は新たな学校祭を成功させたい。 ③ JRCに加盟し、熊本震災の募金活動やボランティア研修に参加した。幅広いボランティア活動を目指して活動させたい。
意欲的な 高校生活 (1年)	① 基礎学力の定着 ② 規則的な生活習慣を確立 ③ 学校生活の充実	① 日々の授業への取組みを充実させる。 ② 時間やルールを守ることの大切さを啓発する。 ③ 学校行事に積極的に取り組ませる。	① 全体として落ち着いた授業環境であり、授業と放課のメリハリもできている生徒が多い。学年全員ができてくるように緊張感を持たせ続ける。 ② 防げる遅刻が多いので、少しでも減らせるように啓発を続ける。 ③ 行事など全体的によく取り組んでいるが、一人でも多くの生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。
意欲的・自律的な学習や生活 (2年)	① 学習環境の整備 ② 学習習慣の定着 ③ 基本的な生活習慣の確立 ④ 進路目標の設定	① 教室環境の整備と授業規律の一層の向上 ② 適切な学習課題の設定 ③ 身なり、遅刻、礼儀の指導 ④ 補習・模試・面談の活用	① 全体として落ち着いた環境である。授業規律も守られた ② 朝学習(自習・プリント)を継続的に行う取り組みを始めた ③ 場に応じた振る舞いができている。特定の生徒の遅刻があるが、家庭環境や情緒不安定に起因するものが中心である。 ④ 面接週間を活用したり、習熟度や進路別の補習を実施した
進路目標達成 (3年)	① 意欲的な学習態度の確立 ② 自律した生活の実践	① 個々の進路目標を設定させ、学習に邁進させる。 ② 自ら考えて行動する習慣を身につけさせる。	① 落ち着いた雰囲気各自の目標に向けて努力を継続できた。低学年のうちに目標を高く掲げさせる指導がもっと必要だった。 ② おおむね最上級生としてふさわしい生活態度で、高校生活の最後を締めくくることができた。ただし、身だしなみについては、1・2年生の模範となれない部分があった。
総合評価	① 早い段階で進路目標を明確にし学習習慣を定着させる必要がある。授業改善に努めるとともに補習・外部模試等を活用し生徒の興味関心を喚起し自ら学習する姿勢を育成していかなければならない。 ② 身だしなみや遅刻指導など学校全体で生徒を指導し成果がでている。人間関係・進路等で悩みをもつ生徒もあり相談活動等の支援体制をより整備していかなければならない。 ③ 学校行事や部活動指導の在り方等について検討を加えさらに活力ある学校とし、保護者・地域社会への発信を積極的に行い近隣の大学等と連携し信頼される学校をめざしていかなければならない。		